

# 第2期 鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略 概要版



ユネスコ  
食文化創造都市

鶴岡

UNESCO Creative City  
of Gastronomy



JAPAN HERITAGE

日本遺産

三つの日本遺産

自然と信仰が息づく  
『生まれ変わりの旅』  
～出羽三山

サムライゆかりのシルク

荒波を越えた男たちの  
夢が紡いだ異空間  
～北前船寄港地

令和4年3月改訂

鶴岡市

# 第2期鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略【策定に向けて】

## 1 策定の趣旨

本市では、平成27年10月に「鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(以下「総合戦略」という。)を策定し、鶴岡市人口ビジョンに掲げた将来展望を実現するため、具体的な施策を展開

総合戦略は今年度末をもって計画期間が終了することから、地方創生の充実・強化に向け切れ目のない取組みを進め、人口減少対策を推進するため、令和2年度を始期とする次期総合戦略を策定

## 2 策定における基本的な考え方

### 1) 国及び県の総合戦略との関係

国が策定する総合戦略及び県の地方版総合戦略に掲げる4つの基本目標と2つの横断的目標との整合を図るとともに、「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」に掲げられた新たな視点を勘案して策定

### 2) 鶴岡市総合計画との関係

総合戦略は、第2次鶴岡市総合計画基本計画をベースに、人口減少の抑制に資する有効な施策から構成し、具体的な施策の実施は総合計画実施計画に位置付け

### 3) これまでの総合戦略の検証と市民意見の反映

外部有識者からなる鶴岡市総合戦略策定推進会議、市議会からの意見、市議会人口減少・地域活性化対策特別委員会調査報告書のテーマ・課題、市民からのパブリックコメント、前期総合戦略の施策の進捗状況、KPIの達成状況を検証し第2期総合戦略に反映

### 4) 人口ビジョンの時点修正と一体的な管理

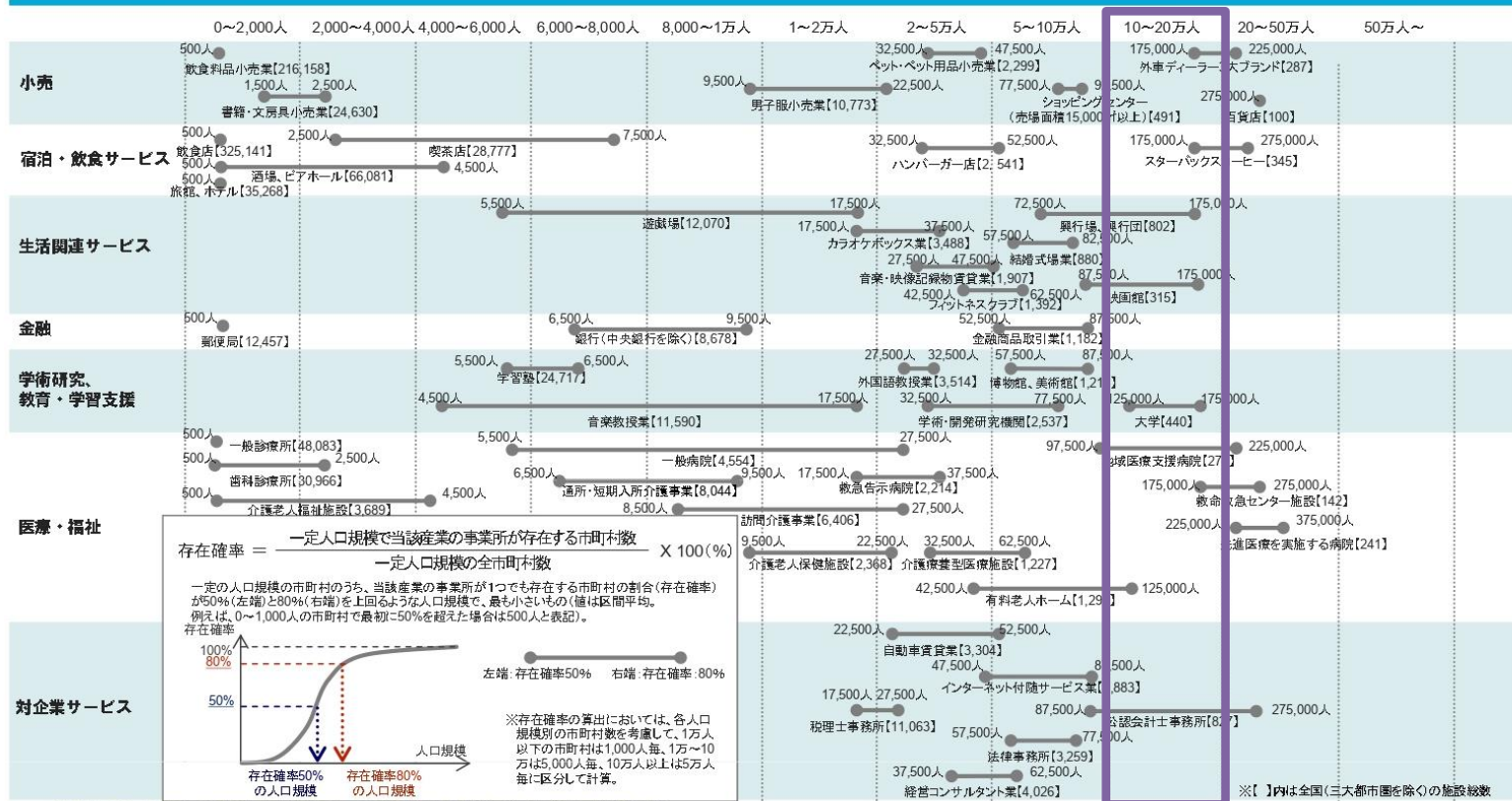
現在の人口等の見通しが平成27年策定時点推計と大きくかい離していないことから、時点によりデータを修正人口ビジョンに掲げた将来展望を実現するため人口ビジョンを総合戦略の中に取り込み一体的に管理

# 第2期鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略【人口ビジョン】

## 3 人口減少がまち・生活に与える影響

- ①生活関連サービスの縮小 … 日常生活を送るために必要な各種サービスは、一定の人口規模で成立(下図参照)
  - ②税収減による行政サービス水準の低下 … 行政サービスの廃止、有料化への懸念
  - ③地域公共交通の撤退・縮小 … 鉄道や路線バスの不採算路線からの撤退、運行回数の減少に拍車
  - ④地域コミュニティの機能低下 … 住民の地域活動の縮小、交流機会の減少で賑わい、地域の愛着喪失が懸念
  - ⑤空き家の増加 … 管理不全の空き家により近隣住民への悪影響
- ⇒急激な人口減少により都市機能の低下、市民生活へのサービス低下を招かないため一定程度の人口規模が必要

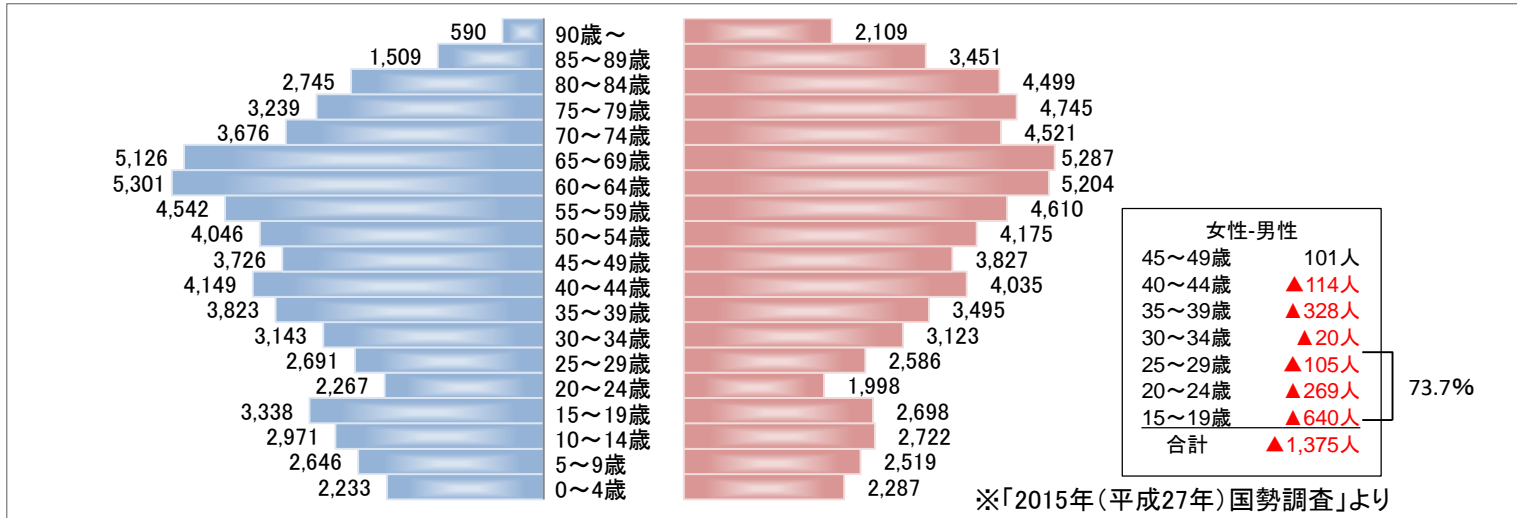
サービス施設の立地する確率が50%及び80%となる自治体の人口規模(三大都市圏※を除く) 国土交通省



## 4 人口動向の分析「女性・若者の流出が課題」

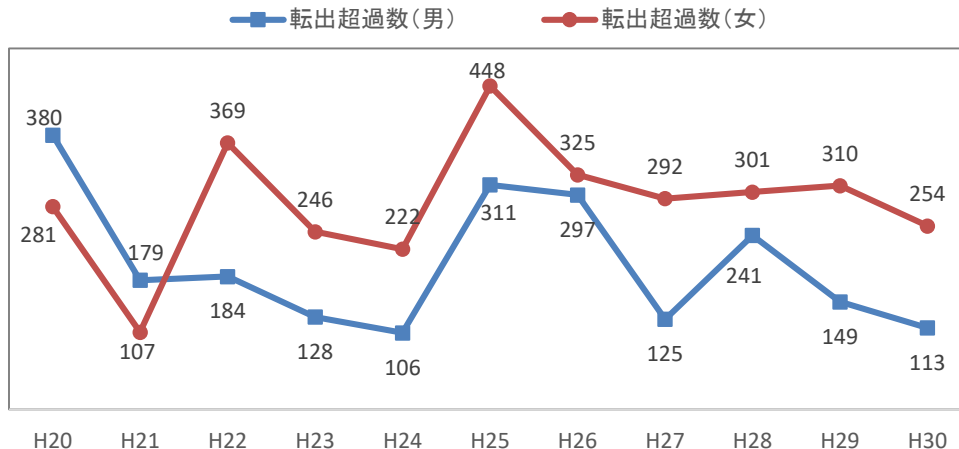
### ①年齢5歳階級別人口(人口ピラミッド)の推移

15～49歳の人口では、女性が男性より1,375人少なく、7割が30歳未満



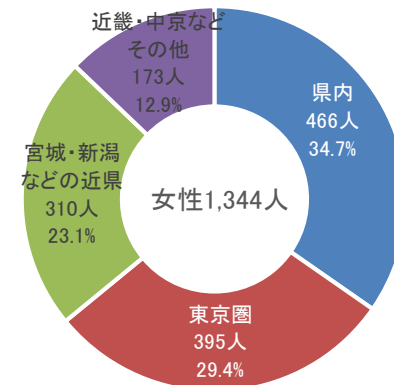
### ②社会増減の分析

2010年(平成22年)以降、女性の転出超過数が男性を上回る傾向



### ③女性の転出先

女性の転出先は、県内・近県で6割、東京圏が3割



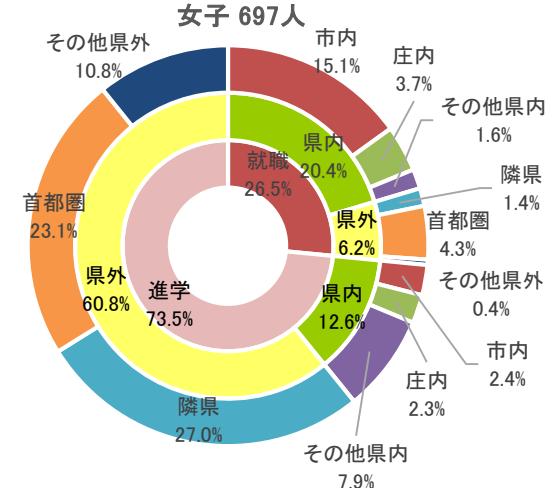
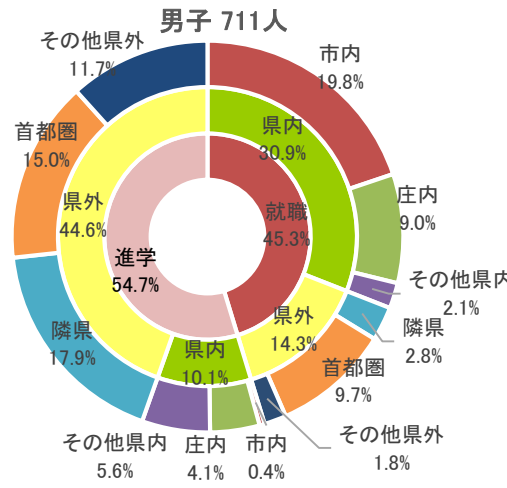
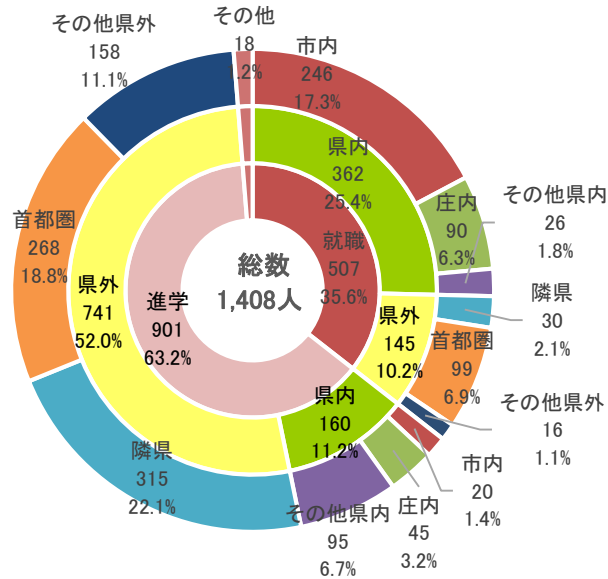
※総務省「住民基本台帳人口移動報告(2017年集計)」より  
 (注)「東京圏」は東京都・千葉県・埼玉県・神奈川県、「宮城・新潟などの近県」は宮城県・新潟県・岩手県・秋田県・福島県とする

※総務省「住民基本台帳人口移動報告」より

# 第2期鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略【人口ビジョン】

## ④高等学校卒業生進路状況調査(平成31年3月)

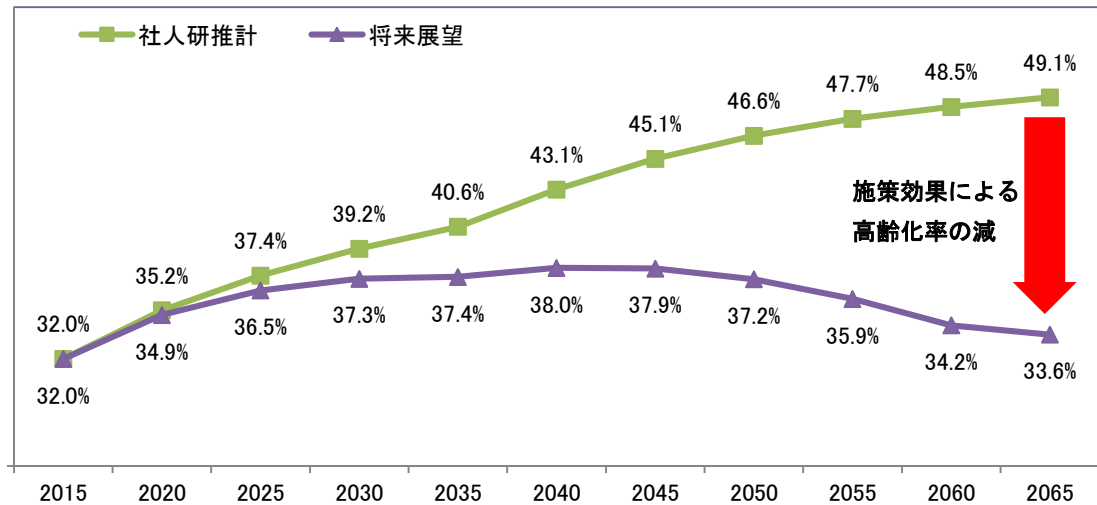
卒業生の就職率は35.6%、進学率は63.2%、女子の進学率は73.5%で男子の54.7%より高い  
 また、卒業生の62.2%が就職や進学に伴い県外に転出



※「高等学校卒業生進路状況調査(平成31年3月)」より

## ⑤高齢化率の将来展望

高齢化率は2025年(令和7年)までは急激に上昇  
施策の効果により、2040年(令和22年)の38.0%  
をピークに人口構造が若返る





## 5 目指すべき将来の方向「中都市人口10万人を維持 若者の回帰と定着・女性活躍に焦点」

- ①将来においても一定の都市機能が維持される中都市として、10万人以上の人口規模を維持
- ②人口減少に大きな影響を及ぼす若者の地元回帰と定着、女性の活躍に焦点

### ○ 安心して働いていくためのしごとをつくり、担い手を育てる

「生産年齢の人口減少をどう食い止めるか」、「働きやすい労働環境をどうつくるか」が大きな課題となっており、高校・大学卒業後の地元定着（回帰）を図るため、やりがいを感じることでできる魅力的なしごと・雇用機会を十分に創出し、誰もが安心して働けるようにする

### ○ ひとの交わりを加速させ、移住者や関係人口を増やす

若者たちが「地方にこそチャンスがある」といった夢や希望を抱いて地元に戻れるようにすること、また、地方に移住する動きを支援し、住み続けたいという希望の実現に取り組む

### ○ 結婚・出産の希望を持つひと、子育てするひとを全力で応援する

若い世代での未婚率の増加や晩婚化に伴う第1子出産年齢の上昇、就業状況の変化に伴う結婚・出産・子育てに対する経済的負担感や子育てと仕事の両立のしにくさの解消に取り組む

### ○ 地域の支え合いを通じて、まちの安全を守り、活気を生み出す

都市機能、日常生活サービス機能を維持・確保と地域資源を最大限に活かした魅力的な地域づくり、医療・福祉サービス等の機能の確保や、地域における防災・防犯を強化など人々が地域において安心して暮らすことができるよう取り組む

### ○ 横断的な目標の設定

国の目標に沿いながら、個々の施策を単独で推進するだけでは解決することの難しい中長期的な課題、部署横断で取り組むことで本市の持つ強みや特性がより発揮され、相乗的な効果が期待される「多様な人材の活躍を推進する」、「新しい時代の流れを力にする」の2つの横断的な目標に未来創造のプロジェクトから関連する施策を位置付け

# 第2期鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略【人口ビジョン】

## 6 人口の将来展望「2040年に10.5万人を見込む」

### 人口推計の仮定

○合計特殊出生率が2040年に人口置換水準である「2.07」に段階的に上昇

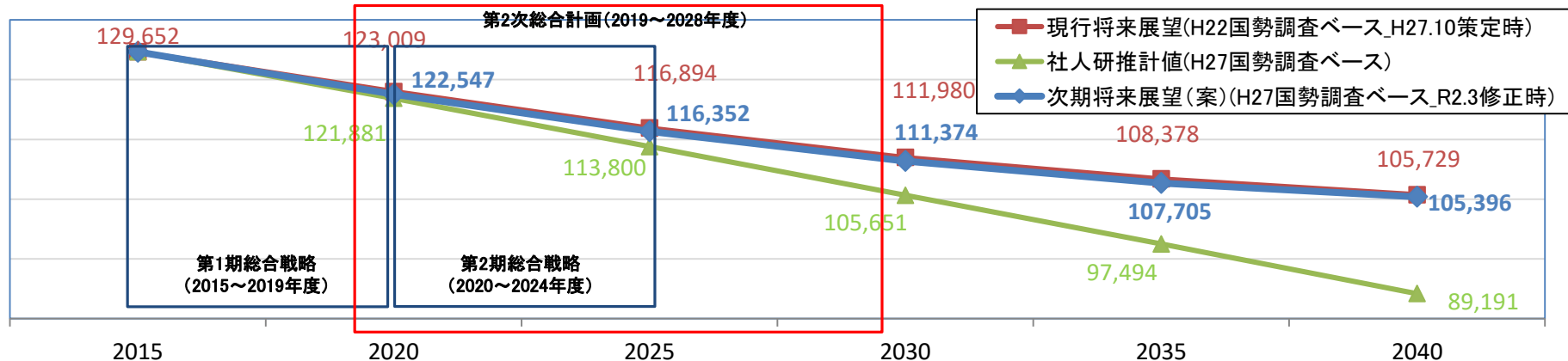
年	2015	2020	2025	2030	2035	2040
合計特殊出生率(仮定率)	1.51	1.62	1.73	1.84	1.95	2.07
仮定率を用いて算出した出生数(A)	904	847	789	751	705	660
社人研が推計した出生数(B)	901 (実数)	812	702	630	557	486
差(A-B)	3	35	87	121	148	174

○2025年に合計特殊出生率が1.73となるためには、出生数(A)789人と社人研推計値(B)702人の差87人を埋める取組みが必要です。

○0～64歳の社会増減が2030年に均衡(転入≒転出)し、その後も段階的に上昇

年	2015	2020	2025	2030	2035	2040
仮定による社会増減数(C)	▲393	▲364	▲159	36	251	504
社人研が推計した社会増減数(D)	▲417 (実数)	▲447	▲384	▲364	▲335	▲291
差(C-D)	▲24	▲83	▲225	▲400	▲586	▲795

○2030年に社会増減が均衡するためには、社人研推計値(D)▲364人を解消する取組みが必要です。



# 第2期鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略【基本フレーム】

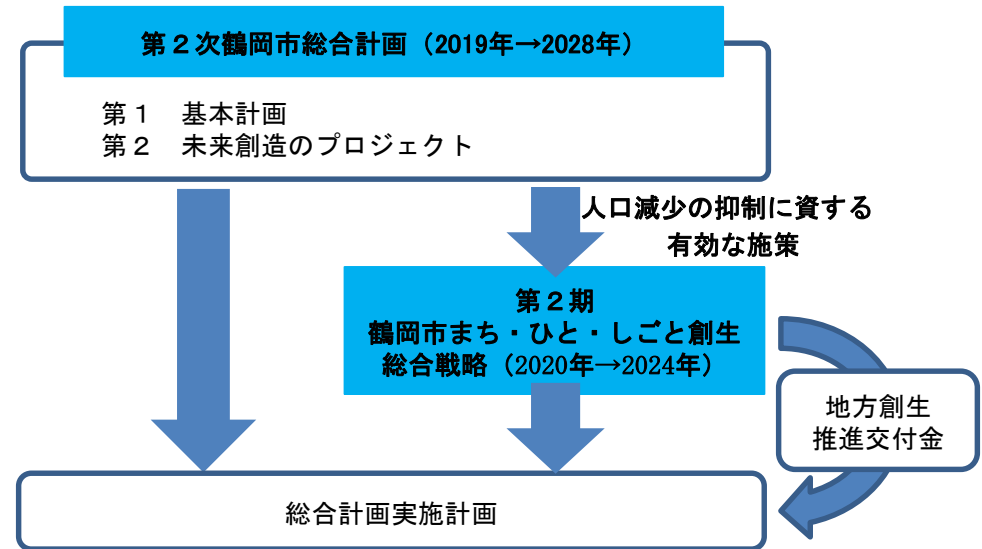
## 7 総合戦略の位置づけ

### 1) 国・県の総合戦略等との関係

- ・国や県の総合戦略との整合性を図りながら、前期総合戦略の終了から切れ目なく、今後5年間の目標や施策の方向性等を示した第2期の総合戦略を策定
- ・策定にあたっては、2019年(令和元年)9月に鶴岡市議会人口減少・地域活性化対策特別委員会が取りまとめた調査報告書のテーマ及び課題を共有

### 2) 鶴岡市総合計画との関係

- ・総合戦略は国の総合戦略を勘案し、第2次鶴岡市総合計画基本計画をベースに、人口減少の抑制に資する有効な施策から構成
- ・具体的な施策の実施は総合計画実施計画に位置付け
- ・国の地方創生推進交付金を活用し、実施計画の事業を推進



## 8 総合戦略の計画期間

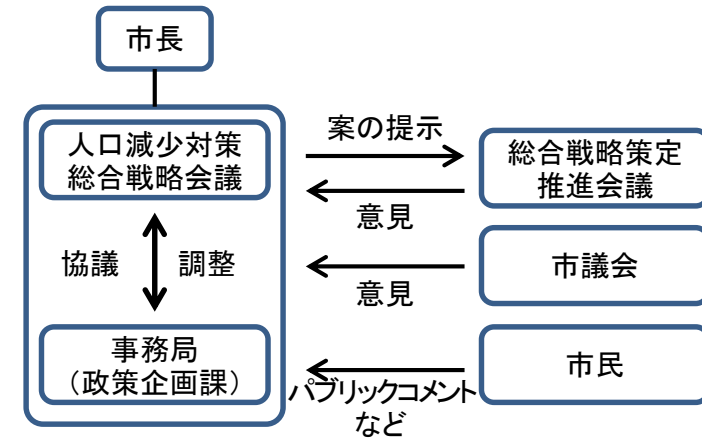
国・県の次期総合戦略の計画期間に合わせ、令和2年度(2020年度)から令和6年度(2024年度)までの5年間(人口ビジョンの計画期間は2040年(令和22年度)まで)



# 第2期鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略【基本フレーム】

## 9 総合戦略の策定体制

- 1) 鶴岡市人口減少対策総合戦略会議(内部会議)  
人口ビジョン及び総合戦略を策定するための庁内体制として、関係課が連携して協議
- 2) 鶴岡市総合戦略策定推進会議(外部会議)  
産・官・学・金・労・言の各分野の識見者で構成し、施策の推進及び効果検証に関し意見を聴取
- 3) 市議会、人口減少・地域活性化対策特別委員会  
施策の推進及び効果検証に関する意見聴取と委員会調査報告の進捗説明
- 4) 市民意見  
パブリックコメントのほか、HP上で市民意見を聴取



## 10 周知と巻き込み

- ・企業、経済団体、コミュニティ組織など様々な市民を巻き込みながら、具体的な施策を推進
- ・ホームページでの周知に加え、市長と語る会や各組織体の会合など多様な機会を捉えた積極的な周知を実施

## 11 PDCAサイクルによる進行管理

総合戦略の着実な実施に向け、PDCAサイクルにより進行管理

- ・基本目標ごとに取組期間終了までの数値目標の設定
- ・具体的な施策の各施策の中項目毎に重要業績評価指標(KPI:Key Performance Indicators)を設定
- ・横断的目標の数値目標は別に定め、具体的な施策のKPIは4つの基本目標と同じ

KPIの進捗状況は、毎年度施策や事業の効果を検証し、鶴岡市総合戦略策定推進会議(外部会議)や市議会に取組状況とあわせて報告・協議、必要に応じて戦略を見直し

# 第2期鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略【第1期の交付金事業】

## 12 第1期総合戦略において活用した国の支援措置(事業別交付金額)

地域課題の解決と地域の活性化の取組みに対する国の財政支援として、以下のとおり地方創生推進交付金を活用(H30年度までの実績額)

事業名	事業期間	事業内容	事業費	交付金額
1 ユネスコ認定を活かした新たな食文化産業の創造推進事業	H28～H30	ユネスコ認定の効果を今後永続的に発揮し、発展させていくため、中長期的視野に立って、食にまつわる健康、生活、カルチャー、デザインなどの視点も合わせた新しい食文化産業を創造し、地域に定着させる。	115,181,114円	57,590,556円
2 先端バイオを中心とした「学び」「遊び」「つながり」による地方創生事業	H28～H30	未来を担う子どもたちに、本市に拠点を置く先端バイオ関連の研究機関や企業の協力に加え、豊かな森・山・海・里及び文化、歴史などの地域資源から学ぶ、都会では味わえないここだけの多様な教育プログラムを開発し、その体験の場を提供する。	18,265,881円	9,132,940円
3 ルネサンス創造都市の多面的都市空間「鶴岡まちづくりブランディング事業」	H28～R1	本市がこれまで構築してきた「まちづくり」「都市計画」といった特性を十分に活かし、公民連携によって都市の構築を進める体制をつくりながら、まちなか居住推進を核として各種関連事業との連携を深め、まち全体のブランド力を高めていく。	33,661,372円	16,830,686円
4 先端バイオを核とした次世代イノベーション都市形成に向けたインキュベーション施設の拡充(動物実験棟整備)	H29	先端バイオによる研究成果を産業化に結びつけるため、研究機関やベンチャー企業が研究用として活用できるレンタルラボとして、本市が設置している公の施設である「鶴岡市先端研究産業支援センター」に、医療・健康分野の研究開発の発展に必要な不可欠である動物飼育実験棟を整備する。	68,472,000円	34,236,000円
5 鶴岡型DMO形成推進事業	H29～R1	鶴岡型DMOの設立に向け、戦略策定のための地域の合意形成、マーケティング調査を実施する。鶴岡型DMOは、観光業だけでなく、食、農林水産、商工業など幅広い地域産業の売上増に寄与する事業を中心としながら、設立後の自立的な事業運営に向けて、旅行代理店事業、地域商社事業を戦略的に収益事業として確立し、地域の「稼ぐ力」を引き出す。	36,608,207円	18,304,103円
6 次世代イノベーション都市社会実装に向けたインキュベーション施設の拡張(旧栄小改修)	H30	旧栄小をインキュベーションセンター(鶴岡市先端研究産業支援センター別棟)として整備し、現サイエンスパークの発展に資する新たな拠点づくりを進める。	104,938,796円	52,469,398円
7 【県連携】がんメタボローム研究支援事業	H28～R2	慶應先端研でのメタボローム解析技術を活用した「がん研究」と、豊富な臨床検体を有する国立がん研究センターが連携し、世界最先端のメタボローム解析技術を用いた、がん特有な代謝メカニズムの解明とデータベース化を目的とした研究を、地域を挙げて実施する。	373,753,759円	186,876,879円
8 【県連携】官民協働・地域間連携(中間支援プラットフォーム構築)による住民主体の地域づくり推進事業	H29～R2	住民主体の地域づくり(地域運営組織形成)支援を行う。連携のツールとして、集落調査を行い、地域診断書(カルテ)を作成し、関係者間で情報共有、連携施策展開等に繋げる。	156,520,832円	64,001,716円

# 第2期鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略【第1期の検証】

## 13 第1期総合戦略に掲げるKPIの検証

### 基本目標1「地域にしごとを増やし、安心して働けるようにする」

数値目標：市内事業所数(民営)のうち新設事業所の割合

基準値 (平成24年経済センサス) 3.9%	目標値(H31) 5.0%	H29実績値 —	H30実績値 平成28年度 7.5%	達成度 ○
------------------------------	------------------	-------------	--------------------------	----------

### 基本目標2「地域への新しいひとの流れをつくる」

数値目標：移住定住施策による転入者数

基準値 —	目標値(H31) 延べ100人	H29実績値 延べ155人	H30実績値 延べ209人	達成度 ◎
----------	--------------------	------------------	------------------	----------

### 基本目標3「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」

数値目標：本市の合計特殊出生率

基準値 1.52	目標値(H31) 1.60	H29実績値 平成28年 1.51	H30実績値 平成29年 1.50	達成度 △
-------------	------------------	-------------------------	-------------------------	----------

### 基本目標4「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る」

数値目標①：市全体人口減少率

基準値 H22～H26 ▲3.74%	目標値(H31) H27～H31 ▲3.5%	H29実績値 H27～H29 ▲2.38%	H30実績値 H27～H30 ▲3.56%	達成度 △
--------------------------	------------------------------	-----------------------------	-----------------------------	----------

数値目標②：市郊外地・旧町村部人口減少率

基準値 H22～H26 ▲5.75%	目標値(H31) H27～H31 ▲5.5%	H29実績値 H27～H29 ▲3.20%	H30実績値 H27～H30 ▲5.15%	達成度 △
--------------------------	------------------------------	-----------------------------	-----------------------------	----------

【凡例】 達成度合

- ◎：平成30年度までにKPIを既に達成
- ：令和元(平成31)年度までにKPIを達成できる見込み
- △：令和元(平成31)年度までにKPIを達成できるか現時点では不明
- ：平成30年度末時点で未供用等により達成度評価にあたらない

## 【基本目標1】

安心して働いていくためのしごとをつくり、担い手を育てる

- 1 付加価値の高い地域産業や魅力あるしごとづくりの促進
- 2 農林水産業の成長産業化の推進
- 3 いきいきと働くことができる環境づくり
- 4 ふるさと鶴岡を愛する教育の推進

## 【基本目標2】

ひとの交わりを加速させ、移住者や関係人口を増やす

- 1 移住・定住・地元回帰の促進
- 2 関係人口・交流人口の拡大

## 【基本目標3】

結婚・出産の希望を持つひと、子育てするひとを全力で応援する

- 1 結婚支援の推進
- 2 妊娠・出産・子育ての支援
- 3 男女共同参画の気運醸成

## 【基本目標4】

地域の支え合いを通じて、まちの安全を守り、活気を生み出す

- 1 まちの賑わい創出と支え合うコミュニティの形成
- 2 安全・安心な暮らしを守る

【横断的な目標1】 多様な人材の活躍を推進する

【横断的な目標2】 新しい時代の流れを力にする

# 第2期鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略【基本目標1】

## 安心して働いていくためのしごとをつくり、担い手を育てる

数値目標：①新規雇用創出数累計(1,600人) ②25～44歳の女性の就業率(83.3%→85.3%)

### 【基本的方向】

- 高等教育機関等の研究やベンチャー企業の成長を支える環境整備や、食の産業面からの振興により、地域内企業の成長力を強化
- 6次産業化による付加価値向上や担い手確保、資源の有効活用などによる、農林水産業の維持・発展と活力ある農山漁村の形成
- 若者の地元就職・地元回帰の促進と人材の能力向上や優れた技術と技能の継承支援

### 【具体的な施策】

#### 1 付加価値の高い地域産業や魅力あるしごとづくりの促進

##### (1) 高度な研究教育による新産業創出と起業家育成

ア 高等教育機関、研究機関の研究成果・新技術を核とする新しい産業の振興

イ 産業を創る若い人材の育成・流入・交流の促進

ウ 企業間・産官学連携の促進と創業・事業拡大支援

##### (2) 意欲を喚起し市民の暮らしを支えるはたらく場の確保・振興

ア 企業の成長力強化

イ 企業・事業所の立地並びに投資促進

ウ 優れた地域資源を生かした産業の振興

#### 【重要業績評価指標(KPI)】

項目	現状値 (2019年度)	成果指標 (2024年度)
高等教育機関・研究機関の研究成果などから誕生した本社を鶴岡市に置くベンチャー企業(従業員4名以上)の数(累計)	5社	7社
上記ベンチャー企業の40歳未満の従業員(役員(非常勤を除く)及び正社員)数	187人	227人

項目	現状値 (2015年度)	成果指標 (2024年度)
従事者一人あたりの商工業等生産額	696万円/人	800万円/人

#### 2 農林水産業の成長産業化の推進

##### (1) 農業を支える人材の育成・確保

ア 担い手の育成・確保

イ 雇用就農の受け皿となる企業的な経営体の育成

ウ 生産に必要な多様な労働力の確保

##### (2) 農産物の付加価値向上と販路拡大

ア 6次産業化、農商工観連携の推進と地産地消

##### (3) 効率的な木材生産と健全で豊かな森林づくり

ア 木材生産の効率化の推進

##### (4) 水産物の安定供給と漁村の活性化

ア 担い手の育成・確保と漁業の生産基盤の維持

項目	現状値 (2019年度)	成果指標 (2024年度)
新規就農者数	20人	累計 239人
うち新規参加者数	11人	累計 132人

項目	現状値 (2018年度)	成果指標 (2024年度)
産直施設の販売額	10.8億円	14.1億円

項目	現状値 (2018年度)	成果指標 (2024年度)
木材生産量(民有林)	31,831㎡	48,000㎡

項目	現状値 (2019年度)	成果指標 (2024年度)
生産額	11.0億円	15.0億円
魚価	468円/kg	550円/kg

## 【具体的な施策】

### 3 いきいきと働くことができる環境づくり

#### (1)本市の産業を支え発展に導くはたらく人の確保・育成

- ア 若者の地元就職の促進と職業意識・能力形成
- イ 起業・創業環境の充実
- ウ 産業人材の育成と職業技術・技能の継承

#### (2)仕事と生活の調和の促進

- ア 働きやすい環境づくり

### 4 ふるさと鶴岡を愛する教育の推進

#### (1)次代を担う人づくりの推進

- ア たくましさ・優しさ・賢さを育む学校教育の推進
- イ 豊かな教育資源の活用
- ウ 地域と協働する「チーム学校」の推進

#### (2)地域における人づくりの推進

- ア 家庭教育力の向上
- イ 豊かな自然のなかでの子どもの育成

#### 【重要業績評価指標(KPI)】

項目	現状値 (2019年度)	成果指標 (2024年度)
新規高等学校卒業者就職者のうち市内就職者の割合	50.6%	60.1%

項目	現状値 (2019年度)	成果指標 (2024年度)
市内の山形いきいき子育て応援企業優秀企業・実践企業数	40社	75社

項目	現状値 (2019年度)	成果指標 (2024年度)
全国学習状況調査における割合		
・自己肯定感を感じている子ども	78.0%	82.0%
・他者との協働や共生について考えている子ども	54.7%	56.0%
・学んだことを日常に生かそうとする子ども	80.1%	85.0%

項目	現状値 (2018年度)	成果指標 (2024年度)
家庭教育支援講座を実施した施設割合	46.5%	65.8%



# 第2期鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略【基本目標2】

## ひとの交わりを加速させ、移住者や関係人口を増やす

数値目標：①転入者数と転出者数の差(▲394人→▲200人) ②ふるさと寄附金寄附件数(25,596件→173,000件)

### 【基本的方向】

- 首都圏在住者への相談対応・情報発信、高等教育機関や地元企業との連携による地域産業の高度化、先端研究活動を担う人材育成と定着を推進し若者が地元に戻って就職できる支援策を充実
- 歴史、文化による戦略的な観光施策の展開、市民スポーツの振興、外国人住民との共生のまちづくり、公共交通ネットワークの効率化・再編整備を進め市民の日常の移動手段を確保

### 【具体的な施策】

#### 1 移住・定住・地元回帰の促進

##### (1) 移住・定住の促進

- ア 移住・定住の促進
- イ テレワークの推進

##### (2) 人材の流入と定着を図る環境の整備

- ア 高等教育機関の特長を生かした教育研究活動の充実と地域産業の発展を担う人材の育成
- イ 若者の地元回帰、地元就職の促進

### 【重要業績評価指標(KPI)】

項目	現状値	成果指標 (2024年度)
移住定住施策による移住件数(年間)	32件 (2018年度)	42件
移住定住施策によるテレワーク実践者数(累計)	0件 (2020年度)	12件

項目	現状値 (2019年度)	成果指標 (2024年度)
高等教育機関等から誕生したベンチャー企業の40歳未満の従業員数	187人	227人

項目	現状値 (2018年度)	成果指標 (2024年度)
文化財施設入館者数	993,275人	1,110,000人

項目	現状値 (2018年度)	成果指標 (2024年度)
観光入込客数	637万人	760万人
外国人延べ宿泊者数	7,924人	50,000人

#### 2 関係人口・交流人口の拡大

##### (1) 文化資源の保存・継承・活用

- ア 歴史文化資源を活用した地域の活性化と交流人口の拡大

##### (2) 鶴岡ならではの観光の振興

- ア 観光戦略・マーケティングなどに基づく観光振興
- イ 地域活性化につながる観光振興
- ウ 訪れたい、住みたい観光地域づくりの推進
- エ 加茂水族館や博物館などを中核とした交流人口の拡大
- オ 国際観光都市の実現をめざしたインバウンド誘客と認知度の向上

# 第2期鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略【基本目標2】

## (3) 市民スポーツの振興

- ア 地域の活力となる競技スポーツの振興
- イ 市民の健康・生涯スポーツの場の形成

### 【重要業績評価指標(KPI)】

項目	現状値 (2018年度)	成果指標 (2024年度)
「運動・スポーツに関するアンケート調査」における割合		
成人週1日以上の実施率	53.7%	65.0%
成人週3日以上の実施率	21.9%	30.0%

## (4) 国際化の推進

- ア 多文化共生のまちづくりの推進と国際化対応の充実

項目	現状値 (2018年度)	成果指標 (2024年度)
外国語講座及び日本語講座受講者数	1,276人	1,576人

## (5) 交流・連携の推進と基盤の整備

- ア 高速交通ネットワークの充実
- イ ICTの利用環境整備と行政サービスの充実

項目	現状値 (2015年度)	成果指標 (2024年度)
日本海沿岸東北自動車道 鶴岡西IC利用台数(台/日)	7,225台	11,300台

## (6) 関係人口の創出・拡大

- ア 新たな形態による関係人口の創出・拡大

項目	現状値 (2020年度)	成果指標 (2024年度)
移住サポートプログラムにおける複数回(年度内)参加者数(累計)	7人	47人
ふるさと納税における2年連続(評価年度とその前年度)納税者数 (「ふるさとチョイス」における集計)	3,141人	12,600人

# 第2期鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略【基本目標3】

## 結婚・出産の希望を持つひと、子育てするひとを全力で応援する

数値目標：①合計特殊出生率(1.49/749人→1.71/800人) ②子育て環境や支援への満足度(27.6%→42.0%)

### 【基本的方向】

- 地域の支え合いの力で結婚したい若者を支援する体制づくりを推進
- 妊産婦と乳幼児の健康増進と出産育児の不安解消や費用の負担軽減、多様なニーズに対応する保育サービスの提供、児童の放課後の生活、遊びの場の充実
- 仕事と子育ての両立、安心して働くことができ多様な人材が活躍する環境づくりの推進
- 子どもたちが安心して学校生活を送れるよう教育環境の整備、市民一人ひとりが地域課題を共有し解決に向けた取組が図られる学びの機会の提供

### 【具体的な施策】

#### 1 結婚支援の推進

##### (1)結婚を希望するひとを支援する環境づくりの推進

- ア 結婚を希望する若者を地域社会全体で支援できる環境づくりの推進

##### 【重要業績評価指標(KPI)】

項目	現状値 (2019年度)	成果指標 (2024年度)
つるおか婚シェルジュの世話焼き活動による婚姻組数(累計)	15組	44組

#### 2 妊娠・出産・子育ての支援

##### (1)子どもを産み育てやすい環境の充実

- ア 安心して妊娠・出産・子育てができるきめ細やかな支援
- イ 子育て世代の負担軽減
- ウ 未就学児童の教育や保育の充実
- エ 放課後の居場所づくりの推進
- オ 子育て支援サービスの質の向上

項目	現状値 (2015年度)	成果指標 (2024年度)
本市の「子育てのしやすさ」の評価で「しやすい」又は「ややしやすい」と回答した保護者の割合	38.3%	50.8%

#### 3 男女共同参画の気運醸成

##### (1)男女共同参画の気運醸成

- ア 男女共同参画と互いに尊重し合う社会づくりの推進

項目	現状値 (2019年度)	成果指標 (2024年度)
市内の山形いきいき子育て応援企業優秀企業・実践企業数	40社	75社

# 第2期鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略【基本目標4】

## 地域の支え合いを通じて、まちの安全を守り、活気を生み出す

数値目標：①中心市街地イベント人出数累計(483,500人) ②地域活動事業参加者割合(83.3%→89.4%)  
③総合防災訓練参加者累計(2,700人)

### 【基本的方向】

- 中心市街地における多様な商業・サービス機能の集積、意欲ある商業者による取組の支援、中心市街地への都市機能の集積やまちなか居住の誘導による賑わいと魅力あるまちづくりの推進により元気なまちの活力の源となる賑わいを創出、地域コミュニティにおける住民主体の取組みの支援、住民活動の担い手やリーダー育成による集落の維持活性化
- 救急、災害医療体制、在宅医療の提供体制の整備、市立病院の経営改善、介護予防と社会参加・生活支援を一体的に推進し切れ目のない医療を提供、研究機関などと連携したところとからだの健康づくり、自主防災組織や消防団の育成と強化により地域の防災防犯力を高め、安心して暮らせるまちづくりを推進

### 【具体的な施策】

#### 1 まちの賑わい創出と支え合うコミュニティの形成

##### (1) 明るく元気な地域の活力の源となるまちの賑わいの創出

- ア 中心市街地における多様な商業・サービス機能の立地促進
- イ 地域に根ざした魅力ある商店・商店街づくり

##### (2) 快適な都市環境の形成

- ア コンパクトな市街地形成と地域とのネットワークの構築
- イ 賑わいのある中心市街地の形成

##### (3) 公共交通の再編や整備による利便性の向上

- ア 公共交通ネットワークの形成

##### (4) 助け合い、支え合う地域コミュニティづくりの推進

- ア 住民主体の地域づくりの推進

##### (5) 過疎地域の活性化

- ア 中山間地域における集落対策の推進

#### 【重要業績評価指標(KPI)】

項目	現状値 (2019年度)	成果指標 (2024年度)
中心商店街における自転車歩行者数(休日・平日の平均)	3,934人	4,116人
中心商店街における空き店舗率	8.8%	6.0%

項目	現状値 (2018年度)	成果指標 (2024年度)
中心市街地居住人口の市内総人口に占める割合	5.41%	5.49%

項目	現状値 (2018年度)	成果指標 (2024年度)
平成29年度を100とした場合の路線バスなど利用者指数	99	100

項目	現状値 (2019年度)	成果指標 (2024年度)
地域ビジョン策定件数(累計)	8件	17件

項目	現状値 (2019年度)	成果指標 (2024年度)
2018(平成30)年現在の推計値と比較して人口減少や高齢化が抑制されたモデル地区数(累計)	1地区	7地区

## 【具体的な施策】

### 2 安全・安心な暮らしを守る

#### (1) 医療提供体制の充実

- ア 急性期・回復期・慢性期まで切れ目のない医療の提供
- イ 市立病院の健全経営と患者サービスの向上

#### (2) 高齢者が健康で生き生きとした地域の実現

- ア 地域生活を支える体制の充実

#### (3) こころと体の健康づくりの推進

- ア 生活習慣病やがんの予防推進
- イ こころの健康づくりと自殺予防
- ウ 高等教育機関や研究機関、ベンチャー企業などと連携した市民の健康づくりの推進

#### (4) 地域の防災・防犯力の強化

- ア 地域防災力の確保

#### (5) 安全・安心な生活基盤の整備

- ア 安心に暮らせる住環境づくりの推進

#### 【重要業績評価指標 (KPI)】

項目	現状値 (2018年度)	成果指標 (2024年度)
荘内病院における患者サービスの満足度指数	82.7%	90.0%

項目	現状値 (2019年度)	成果指標 (2024年度)
要介護認定率	19.43%	19.07%以下

項目	現状値 (2018年度)	成果指標 (2024年度)
がん検診受診率		
・胃がん検診受診率	32.6%	34.4%
・大腸がん検診受診率	39.3%	40.7%
・肺がん検診受診率	41.1%	43.3%
・乳がん検診受診率	22.9%	24.5%
・子宮がん検診受診率	31.7%	34.5%
人口10万人あたりの自殺者数	21.3	15.3

項目	現状値 (2019年度)	成果指標 (2024年度)
地域防災計画上での地区防災計画策定組織数(累計)	0件	18件

項目	現状値 (2019年度)	成果指標 (2024年度)
住宅確保要配慮者専用住宅登録戸数(累計)	34戸	58戸

# 第2期鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略【2つの横断的な目標】

## 多様な人材の活躍を推進する

数値目標:①25～44歳の女性の就業率(83.3%→85.3%) ②障害者の実雇用率(2.08%→2.3%)

### 【基本的方向】

○ 多様な人材が活躍できる環境づくりを積極的に推進し、若者、高齢者、女性、障害者など誰もが居場所と役割を持ち活躍できる活気あふれる地域社会を目指す

### 【具体的な施策】

#### 1 全世代全対象型地域包括ケアの推進

高齢者、障害者、子ども、生活困窮者、社会的孤立者など幅広い対象に誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、住まい、医療、介護、予防及び生活支援を地域包括ケアにより一体的に提供

#### 2 輝く女性活躍の推進

男女共同参画を推進し、女性はその個性と能力を十分に発揮し、いきいきと働き活躍できる働きやすい環境を整備

## 新しい時代の流れを力にする

数値目標:①未来技術を活用した地域課題解決のための取組件数(5件)

②温室効果ガスの削減(983.9kt-CO<sub>2</sub> →829.7kt-CO<sub>2</sub>)

### 【基本的方向】

○ ユネスコ創造都市ネットワーク食文化分野の加盟、東京オリンピック・パラリンピックを機とする国際化の流れの中で、Society5.0の技術革新を活用し、スマート農業はじめ様々な分野で人手不足の解消や地理的・時間的制約の克服を目指す

あわせて、コロナ禍を踏まえ、新しい生活様式を実践していくためにも、未来技術を有効に活用し、デジタルトランスフォーメーション(DX)を進める

○ SDGs(持続可能な開発目標)の理念に沿って、環境の保全や自立的なエネルギー需給など、経済・社会・環境を巡る広範な課題解決図り地方創生を推進

### 【具体的な施策】

#### 1 食文化・食産業創造の推進

市民が親しむ多様な食文化の特徴を生かし農林水産業、食に関わる製造業・卸売業・小売業や宿泊業、飲食サービス業などの産業を振興

#### 2 地域の国際化とSDGsの推進

外国人観光客、外国人居住者に向けた国際化対応の推進、クリーンエネルギーの活用、デジタル化の推進、有機農業等の拡大による環境負荷軽減など、SDGs(持続可能な開発目標)の基本理念に基づく官民の連携協働による新たな価値の創出

#### 3 デジタル化の推進

リモートやAIなどのデジタル技術を活用した地域課題の解決、官民等のあらゆる分野におけるデジタル化の推進